

寺だより

愚僧独言

坂村真民は熊本生まれの仏教詩人。戦後、朝鮮半島から引き揚げて愛媛県に移り住み、高校教師のかたわら、多くの詩を残した。2006年、97歳で逝去。

彼の詩は、平易な言葉で綴られ解説を必要としない。例えば、こんな一節がある。「二度とないこの人生を/いかに生きいかに死するか、/耳をかたむけることもなく/うかうかとして、/老いたる人の/いかに多きことぞ。」

特に難しい言葉も言い回しもないが、それでも、彼の言葉は人の心に届き難い。自分のことだとは思わない人が多いから。

「オレにはオレの考えがある」と思っている人が多いから。

実際には、優れた思想家、哲学者、宗教家と、書物を通じて交流を重ねて、自分なりの死生観を鍛えてきた人は少ない。大抵は、聞きかじりの知識に独りよがりの解釈を加えて、自分の考えだと思いついでいる。そんなものは「考え」ではなくて単なる「思いつき」なのだが、それを言うと、これまた大抵の人は怒るから、狡い坊主はにこにこしながら黙って聞いている。

まあ、その坊主からして、自分が癌で手術を受けるまでは、結構いい加減に生きてきたなあと思っているから、おあいこ。

★★★ 永代経のご案内 ★★★

5月30日（土）
午後2時 仏説無量寿経 法話
7時半 仏説阿弥陀経 法話

5月31日（日）
午前10時 仏説観無量寿経 法話

E-mail : bouzu_893@venus.dti.ne.jp

仏事他一切のご相談を承ります

蓮如上人開基 浄土真宗本願寺派（西）

きょうぎょうじ
なじおごぼう 教行寺

電話 0797-61-0639
ファックス 61-1974